



2020.1.1

Vol.244 Contents



会長年頭あいさつ ..... P1  
九州地方治水大会 ..... P2  
河川愛護絵画コンクール表彰 ..... P3 ~ P4  
河川事業現地研修会報告 ..... P5 ~ P6  
第16回ふくおか水もり自慢!、15周年冊子等 P7 ~ P8  
ふくおかの身近な川とさかなを知ろう!! • P9 ~ P10  
No.49 俳句に登場する淡水魚たち  
協会からのお知らせ





# 年頭のご挨拶



明けまして  
おめでとうございます

福岡県河川協会

会長 <sup>かた</sup>片岡 <sup>せい</sup>誠二

(福岡県議会県土整備委員会委員長)



新しい年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、元号が「平成」から「令和」になり、新たな時代を迎えることとなりました。

新たな時代の幕開けといえば、史上初めてブラックホールの撮影に成功したというニュースがありました。国立天文台の発表では、地球上の8つの電波望遠鏡を結合させた国際協力プロジェクトで、100年にもおよぶ問題を解決するとともに、ブラックホール天文学の新時代を切り開くものだそうです。

自然に対する関心といえば、近年、全国各地で豪雨による災害が発生し、気候変動に伴う降雨量の増加等による災害の激甚化が懸念されております。

福岡県においても、平成29年九州北部豪雨から3年連続で豪雨災害が発生しました。現在、関係機関において災害復旧工事等が進められておりますが、いつ起きるかわからない水害から命を守るためには、日頃から必要な知識を習得し、適切な避難行動をとることも求められております。

当協会といたしましても、災害復旧の迅速な実施等のため、実務講習会や現地研修会を開催するなど市町村等の支援を行うとともに、機関誌「かわ」やホームページを通して、河川に関する情報の提供に努めております。今後とも、総合的な治水対策や豊かな河川環境の整備に積極的に関わって参りたいと考えております。引き続き、皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後に、本年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



# 令和元年度九州地方治水大会

と き 令和元年10月15日(火)

と ころ アクロス福岡

10月15日、アクロス福岡で、「令和元年度九州地方治水大会福岡大会」が開催されました。

福岡県で8年ぶりに開催された本大会には、片岡河川協会会長を始めとし、九州8県の自治体関係者や治水に関わる団体らが約260名出席し、近年の九州地方における度重なる浸水被害を受けて、治水事業費の増額などを国に求める決議を採択しました。

出席した小川知事は開催県挨拶として、「治水事業は、国土を保全し、住民の皆さまの生命、財産を自然災害から守り、安全で活力ある社会を実現するために、非常に重要な役割を担っています。九州の関係の皆さまが一堂に会し、治水事業について議論し、地方の切実なる声を政府に上げていくことは、時宜を得た、極めて意義深いことです。それぞれの地域の住民の皆さまの安全・安心な生活のため、治水事業をしっかり推し進めてまいりましょう」と述べられました。



決議には、以下の5項目が盛り込まれました。

- ①事前防災・減災対策を含む治水対策に充てる財源の確保と「国土強靱化のための3か年緊急対策」の着実な遂行等
- ②全国的に大規模水害が頻発している状況に鑑み、災害復旧関連予算の拡充を図ること
- ③TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)の体制・機能の充実・強化を図ること
- ④地方整備局の組織・人員の拡充など必要な体制確保を図ること
- ⑤九州地方の現状を踏まえ、安全で安心できる国土を形成し、活力ある地域づくりに資するための様々な事項を推進すること

自治体の意見発表では、朝倉市の林裕二市長から、平成29年7月九州北部豪雨による被災状況と復旧・復興の現状が説明されました。

## ～プログラム～

※敬称略

### 第1部 記念講演

【凶暴化する気象災害への対応】-防災の基本、事前対策を忘れていないか-

九州大学大学院工学研究院教授 塚原 健一

### 第2部 治水大会

【主催者挨拶】福岡県知事  
全国治水期成同盟会連合会会長

小川 洋  
脇 雅史

【座長推挙】福岡県河川協会会長

片岡 誠二  
(福岡県議会県土整備委員会委員長)

【来賓祝辞】福岡県議会議長  
国土交通省九州地方整備局副局長

栗原 涉  
永森 栄次郎

【講義】国土交通省九州地方整備局河川部長

藤井 政人

【意見発表】朝倉市長

林 裕二

【大会決議】九州治水期成同盟会連合会副会長

大塚 進弘(直方市長)

【次期開催県挨拶】熊本県土木部総括審議員兼河川港湾局長

永松 義敬



意見発表  
林裕二朝倉市長





令和元年度

# 河川愛護絵画コンクール 表彰式



令和元年度福岡県河川愛護絵画コンクール表彰式が、「添田町オークホール」で行われました。

特等3名、一等4名の方が出席され、受賞者には表彰状とメダルが、福岡県県土整備部河川整備課の富田課長から授与されました。

■日時 令和元年12月8日(日)13:00～

■場所 添田町オークホール

第16回「ふくおか水もり自慢！ in 英彦山」



河川愛護事業  
イメージキャラクター  
よみガエルくん



特等  
柳川市立六合小学校1年  
龍井 彪ノ介さん



特等  
苅田町立馬場小学校4年  
小池 元気さん



特等  
みやこ町立豊津小学校6年  
石川 藍夢さん



1等  
柳川市立六合小学校1年  
平河 蓮佑さん



1等  
田川市立馬場小学校2年  
永岡 結愛さん



1等  
福岡市立香住立小学校3年  
山田 陽央さん



受賞者の皆さん、おめでとうございます！！



1等  
苅田町立馬場小学校5年  
名越 月愛さん

過去の受賞作品はこちら



URL: <http://www.fukuoka-pref-kasen.jp/kasenkyokai/concours/>



## 河川愛護絵画コンクール 優秀作品の講評

[福岡県教育庁義務教育課指導班 指導主事 笹刈 恵氏]

特等

低学年



大きな魚から小さな魚まで、川の中にはたくさんの生き物がいたのでしょね。魚釣りの体験からたくさんのことを発見した様子が伝わってきます。黄色やピンクの優しくあたたかい背景と冷たい青い水のコントラストもきれいに表現されていますね。見る人の心を和ませてくれる作品です。

Nice!

柳川市立六合小学校1年  
龍井 彪ノ介さん

特等

中学年



見開いた目、食いしばった歯、振り上げたさおの表現。大きな魚と力比べをして、やっと釣り上げた様子が見事に表現されていますね。背景の草むらや小石など細かい部分は一つ一つ丁寧に描けていますね。斜めになった体と曲がりくねった魚の画面への取り入れ方が大胆な画面構成になっていて、力強さを感じる作品になっています。

Good!

苜田町立馬場小学校4年  
小池 元気さん

特等

高学年



遠くで魚つりをしている人、近くで大きな魚を釣り上げて喜んでいる人の後ろ姿などから遠近感を感じる作品となっていますね。岩に生えた苔は、ぼかしを使ってしっとり表現され、全体に涼しげな雰囲気を与えています。澄んだ川で遊んだことは、夏の日の大変な思い出となっていつまでも心に残るでしょうね。

Great!

みやこ町立豊津小学校6年  
石川 藍夢さん



# 令和元年度河川事業現地研修会 (岡山県)に参加して

# OKAYAMA

北九州市役所 河川整備課 係長 草野尚嗣



【小田川合流点付替え事業】

令和元年11月14日と15日に、福岡県及び県内市町村の職員など総勢31名で、平成30年7月に甚大な豪雨災害に見舞われた岡山県を視察いたしました。

1日目は、旭川水系砂川(岡山駅から東へ約15km)と高梁川水系小田川(倉敷駅から北西へ約10km)とその支川において、災害復旧状況と今後の取り組みなどを、2日目は、高梁川本川の上流部に位置する千屋ダム(洪水調節容量1,200万m<sup>3</sup>)において、平成30年7月のダム操作などを国土交通省中国地方整備局および岡山県庁の職員から説明をしていただきました。

それぞれ、貴重な体験談や取り組みをご教示いただいたのですが、本稿では、

全国的にも大きく報道された高梁川水系小田川の状況について、報告させていただきます。

高梁川、小田川の流域では平成30年7月5日から7日にかけて、年間平均降水量の1/3にあたる400mmを超える降雨量を記録。この降雨により、小田川などで堤防が決壊し、倉敷市真備町において、浸水面積約1,200ha、最大浸水深約5m、浸水家屋数約4600戸という甚大な被害が発生しました。

被災直後の7月7日から24時間体制で排水を行い、4日後の11日に宅地・生活道路の浸水を概ね解消、15日に堤防締切り盛土、21日に銅矢板二重締切りを完了し、応急復旧対策が完了しています。破堤した約180mの堤防の本復旧工事は、出水期後の10月31日から着手し、令和元年6月12日に完了しています。

さらに、現在は、平成30年7月豪雨と同規模の洪水を安全に流下させるため、高梁川と小田川の合流点を付け替えるとともに、小田川やその支川の堤防強化等を5か年で行う「激特事業」を国土交通省と岡山県が連携して取り組んでいます。合流点の付け替えは、山や耕作地を掘削し、合流点を約4.6km下流に付け替えるという大規模な工事です。小田川の出発水位が下がることにより、小田川の洪水位が約5mも下がるそうです。11月15日時点で、迂回道路の整備と山の文化財調査が完了し、伐木と大規模重機を利用した掘削を実施していました。

このほか、ソフト対策として、マイタイムライン作成支援ツール「逃げキッド」をHPで公開し、防災教育に取り組んでいるほか、「危機管理型水位計」を設置し、氾濫開始水位の約2時間前の水位を「危険水位」として公表するなど、住民自らの避難の促進に努めているとのことでした。

今回の視察では、甚大な被害に対する国土交通省中国地方整備局及び岡山県庁の職員の方々が連携して、「再度災害を防ぎ、住民の安全と安心を守る」という強い意志と懸命な取り組みに敬意を表するとともに、あらためて防災減災に携わる私達の仕事の責任を大きく感じました。ソフト対策の取り組みについても、今後の参考にさせていただきたいと思えます。最後に、多忙な中、視察の対応をしていただいた国土交通省中国地方整備局および岡山県庁の皆様と、今回の機会を設けて頂いた福岡県河川協会の皆様に厚く御礼を申し上げます。



# 現地研修会に参加して

## INSPECTION REPORT

福岡県県土整備部 河川管理課 富永浩二

令和元年11月14日から15日にかけて開催された「令和元年度河川事業現地研修会」に参加しました。平成30年7月豪雨により甚大な被害を受けた岡山県に伺い、行程表（右図）のとおり、災害復旧工事の現場3箇所と県管理ダムを視察しました。

今回の視察で特に印象に残ったのは、岡山県で進められている砂川河川災害関連事業です。砂川では、平成30年7月豪雨により約120mに渡る区間で堤防が決壊しました。これにより、河川水

が堤内地へ流れ込み、約2,200戸の家屋が浸水し、一帯が海のようになったとのこと。河川管理者である岡山県は、被害拡大を防ぐための仮堤防を築く応急工事に早急に着手するとともに、浸水を一刻も早く解消するため、国土交通省へポンプ車の配備を要請し、緊急的な排水活動を実施しました。

現在は、大型コンクリートブロック張工による堤防の復旧工事が完了しています。今後は、再度災害を防止するため、引き続き未被災箇所（下流及び対岸の一部）でも、堤防の強化が進められます。

現地で被害状況の詳しい説明を聴き、河川堤防が決壊することの恐ろしさを改めて感じました。我々が担う災害対応業務は、住民の方々の生活に直結しています。ゆえに、迅速な対応が求められるということを再認識しました。

研修2日目には、岡山県が管理する千屋ダムを視察しました。高梁川上流には千屋ダムを含め4つの県管理ダムがあり、これらのダムでは各ダムの能力や位置関係等を最大限に利用する統合管理がなされています。平成30年7月豪雨時には、これらダム群の洪水調節効果により、ダムが無い場合に比べ高梁川の水位を69cm、溢水量を約700万m<sup>3</sup>低減させました。ダムの洪水調節が、水害の軽減に大きく寄与したことを知ることができ大変勉強になりました。

この2日間を通して、他県の事例を学ぶことができ大変有意義な研修となりました。災害はいつ、どこで起きてもおかしくありません。公共土木施設の管理者として、災害時、迅速に対応するため、あらゆる場面を想定し備えておくことが必要だと感じました。

最後に、多忙な業務の中、現地での案内や説明をしていただきました岡山県、国土交通省中国地方整備局の皆様へ感謝申し上げ、報告とさせていただきます。

日付	視察箇所	【】：事業主体、管理者
11/14 (木)	砂川河川災害関連事業【岡山県】 高馬川河川激甚災害対策特別緊急事業【岡山県】 小田川合流点付替え事業【中国地方整備局】	
11/15 (金)	千屋ダム【岡山県】	

【研修の行程表】



【砂川河川災害関連事業の現地説明】



【砂川の決壊箇所の復旧状況】



# ≡ 木 ふくおか 水 もり 自慢! 木 ≡

## 第16回 ふくおか水もり自慢! in英彦山を開催しました!

令和元年12月8日(日)に田川郡添田町のオークホールにおいて、「ふくおか水もり自慢! in 英彦山」が開催されました。

「ふくおか水もり自慢!」は、福岡県内の「水」・「もり(森)」(山林、川、ため池、水田、水路、海、干潟など)に関わる活動をしている団体(学校、市民団体、NPO、企業、国、地方自治体)が一堂に会し、異分野交流や行政と市民とのパートナーシップを促進するとともに、他の団体の活動内容を学び、今後の活動の糧とするためのイベントです。福岡、筑後、北九州、筑豊の4ブロックを持ち回りで毎年1回開催しています。

今年の水もり自慢!は、「繋がろう!水の源、英彦山で!」をテーマとし、16回目にして初の源流点での開催となりました。開催地である添田町長の挨拶に始まり、午前中は基調講演と基調報告、午後からは38団体の活動報告が行われました。活動報告では、市民団体や行政、大学などの団体が、寸劇やパワーポイント、パネル等による発表で、活動を熱心に報告し、「水もり」に関わる様々な団体同士が交流を深めることができました。

来年度は福岡ブロックで開催する予定です。詳細については、決まり次第、福岡県県土整備部河川整備課HP等でお知らせいたします。多くの方々のご参加をお待ちしております!



( 開催地挨拶 寺西添田町長 )

### 【第16回ふくおか水もり自慢!in英彦山 当日プログラム】

- |       |           |   |
|-------|-----------|---|
| 10:00 | 開催地挨拶     | (添田町長 寺西 明男 氏)                                |
| 10:15 | 基調講演①     | 「近年の災害について」<br>(九州大学大学院工学研究院教授 島谷 幸宏 氏)       |
| 10:55 | 基調講演②     | 「英彦山分水嶺と修験道文化」<br>(九州大学大学院芸術工学研究院教授 知足 美加子 氏) |
| 11:35 | 基調報告①     | (添田町役場防災管理課防災専門官 有川 芳仁 氏)                     |
| 11:50 | 基調報告②     | (矢部川をつなぐ会 松富士 将和 氏)                           |
| 13:00 | 絵画コンクール表彰 |   |
| 13:15 | 活動報告      | (38 団体が発表)                                    |
| 16:55 | 閉会行事      |   |



## 【活動報告】

各団体は、それぞれの活動を持ち時間3分で披露します。今回は38団体の発表がありました。絵やパネル、スライド、劇などで各団体の活動を報告して交流を深めました。



### 発表団体(敬称略、順不同)

嘉穂ふるさと探検隊、白木地区復興支援協議体、英彦山こてんぐ塾、古賀すたいる、特定非営利活動法人アザメの会、矢部川をつなぐ会、遠賀川自然教室、九州大学、水と緑の楽校、豊の国海幸山幸ネット、YNH C(青少年博物学会)九州産業大学、遠賀川を描こう教室、古賀河川図書館、すずめ教室、九州大学大学院工学研究院流域システム工学研究室、遠賀川生き物調査隊、筑後川まるごと博物館運営委員会、添田町、福岡工業大学 森山研究室、平尾台・広谷湿原ラムサール条約登録実行委員会 東筑紫学園高等学校理科部、龍王・山・里・川の会、福岡県県土整備部河川整備課 河川管理課、大根川クリーンネット、遠賀川流域住民の会、福岡大学、NPO 法人筑後川流域連携倶楽部、田川ふるさと川づくり交流会、堀川再生の会・五平太、遠賀川流域子ども水フォーラム、北九州インタープリテーション研究会、(一社)ふくおかFUN、アカザを守る会、筑後川・矢部川・嘉瀬川流域史研究会、古賀ふるさと見分けの会、土居自然学校、福岡県京築県土整備事務所、福岡県田川県土整備事務所 以上、38団体



## 「ふくおか水もり自慢!~15年のあゆみ~」を発行しました!

この度、福岡県河川整備課では、ふくおか水もり自慢!のこれまでの活動をまとめた、「ふくおか水もり自慢!~15年のあゆみ~」を発行いたしました。これまで回を重ねるごとに、様々な地域から多様な団体に参加いただいております。第15回時点では発表団体数が234団体、活動発表件数は539件にも上りました。

本冊子をもってこれまでの成果を再認識するとともに、これから水もりに係る方々にPRするツールとして活用し、今後も市民、学校、行政等の垣根を越えた、「水もり」の輪をさらに広げていきます。





# ふくおかの身近な川と さかなを知らう!!

No. 49



九州のカワヒガイ

## 【 俳句に登場する淡水魚たち 】

**最** 近、芸能人が俳句を詠むテレビ番組がありますね。数年前、“生態系サービスと淡水魚たち”をテーマに講演をする機会があって、文学に登場する淡水魚を調べたことがあります。そのとき、森澄雄という俳人が詠んだ句に、魚を季語にしたものが多数あることを知り、その俳人の全句集を購入しました。すっかり忘れていたのですが、テレビ番組のおかげで思い出しました。その句集の淡水魚が登場するものの中で、私の一番のお気に入り「酒少し淡海の鯉離の夜」です。私は俳句の専門家ではありませんので、句に込められた意味などを解説するセンスは皆無です。単に、淡海の鯉（ひがい）を見て、「おお、きっと、ピワヒガイのことに違いない」と思って、何かしらブルブルっと心が躍ったのを思い出しました。ちなみに、ヒガイは明治天皇が賞味され、絶賛されたことから、「鯉」という漢字を当てるようになったとのこと。なお、琵琶湖にはアブラヒガイという同属の近縁種がいて、どちらも食用にされていたそうで、この句に登場した淡海の鯉が、ピワヒガイなのかアブラヒガイなのか、私には判断できません。なお、淡海＝淡水の海という意味で、鯉は晩春の季語とのこと（九州には、近縁種のカワヒガイしか生息しておりませんので、その写真を掲載しておきます）。

**さ** て、この全句集ですが、その中に登場する魚をすべて拾い上げてみました。淡水魚だけでなく、海産魚も含まれます。そして、あくまで、登場する魚が季語として扱われているものに限定。さっそく結果ですが、数え間違いがなければ、なんと 110 句。全部で 5,847 句もありますので、110 句はさほど多いわけではないのかも？でも、その 110 句を整理すると、いろいろと興味深いことに出くわします。例えば、鮒（ふな）。春の季語として鮒の巣離れ（水温が上がり、鮒が活動し始めるさま）、乗込鮒（産卵のため水田などに乗り込んでくるさま）、夏の季語として濁り鮒（梅雨時期の濁った川を移動するさま）、秋の季語として紅葉鮒（秋ごろの鱗や鱗が赤みを帯びたさま）、冬の季語として寒鮒（水温が下がり動かないさま、また、冬の鮒は句）と、春夏秋冬の全ての季語として登場します（カッコの説明書きは、きごさい歳時記を参照しました）。このことは、この魚が我々にとってかなり身近であったことを意味していると同時に、魚たちが季節に応じて姿を変え、1年間の季節の移り変わりの中で行動を変える様子を、生態学者じゃない人々でもしっかりと感じることできていたことを想像させます。

**こ** の全句集に登場した魚は全部で 37 種、そのうち、約半数は淡水魚でした。そして、





養殖ホンモロコ洋風仕立て

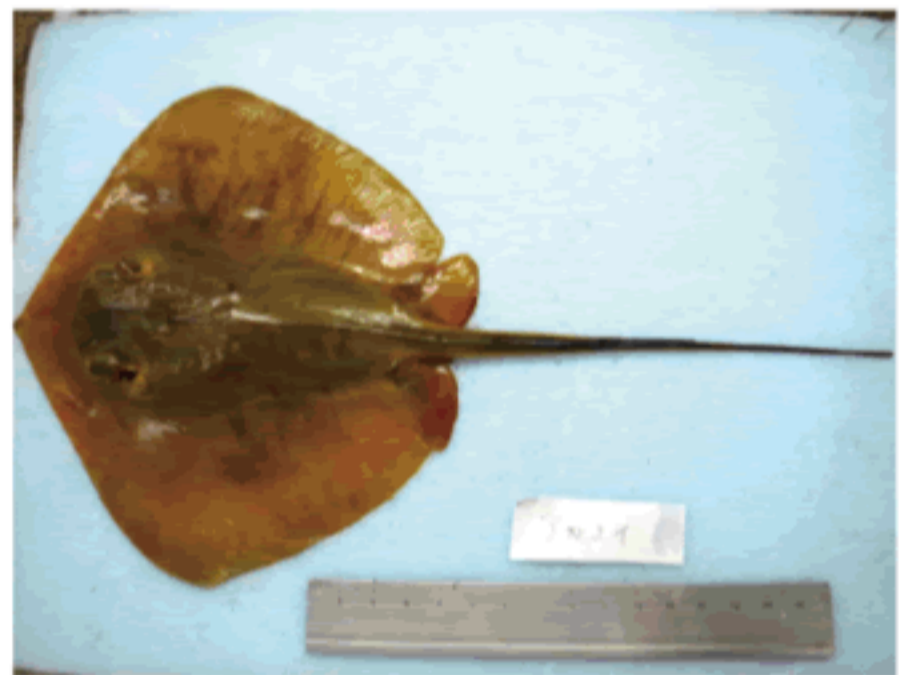
栄光の第一位は、なんと諸子（モロコ）でした。「一酌に夜をながくし諸子焼」、「昼酒もこの世のならい初諸子」、「湖北にて諸子食ふ八十八夜冷え」などなど。山溪カラー名鑑の日本の淡水魚という図鑑には、琵琶湖の固有種ホンモロコについて、「味が淡白で肉質がよいうえ骨がやわらかく、日本産コイ科魚類のなかで最も美味。旬は1から3月」と書かれています。琵琶湖の春を告げる風物詩ということで、森澄雄以外にも、正岡子規をはじめ、多数の俳人に詠まれておりました。そして、食にかかわるものが多数、見受けられます。最近、数を減らす絶滅危惧種ではありますが、その食文化は今も健在ですし、いくつかの地では養殖もおこなわれています。一度、ご賞味してみたいかがでしょうか？ちなみに、私は一度だけ、養殖ホンモロコの洋風仕立てを食べたことがありまして、「うーん、福岡の鮠（はや）も負けてないぞ」と思いました。福岡の鮠の甘露煮は、筑後川・矢部川周辺の道の駅などで売られております。あと、この句集の中では柳鮠という春の季語として登場し



ハヤの甘露煮

ておりました。

**さ** て、先日、福岡市内の川でアカエイの目撃情報があり、新聞社やテレビ局からコメントを求められたのですが、「川の汽水域には普通に入ってくる魚です」とか、「水温が高い時期は活性が高いので、よく見かけると思います」とか、「尾の剣に毒と棘があるのでご注意を」など、普通のコメントしかできませんでした。その2日後、この句集をぱらぱらと見ていたのですが、なんと、「鱧あげて午後はけうとき浦曲かな」と、赤鱧（あかえい）が詠まれているではありませんか。しかも、夏の季語だった。「夏を表す魚として俳句にも登場します」と、2日後であればコメントできたのに。ちょっと悔しい！



アカエイ

**最** 後に、前にもお話しましたが（Vol. 215 参照）、休耕田で養殖を試みる事例で、逸脱した魚たちが国内外来魚として広まるケースも見られています。九州北部には、ホンモロコもタモロコも元々生息しませんでした。最近、分布を拡大させています。休耕田を養魚場として活用される場合は、逸脱防止策をしっかりと行うか、九州に元々生息する魚を使うなど、万全の対策をお願いいたします。

おにくら のりお  
鬼倉 徳雄 — NORIO ONIKURA —

- 九州大学大学院農学研究院・准教授
- 日本水環境学会九州支部・評議委員
- 日本魚類学会自然保護委員・学会賞選考委員
- 応用生態工学会評議委員・編集委員

主な著書／

- 生きざまの魚類学 魚の一生を科学する（猿渡敏郎編著）
- 見えない脅威“国内外来魚”（日本魚類学会自然保護委員会編）



## 協会からのお知らせ



片岡会長から藤巻国土交通省治水課長に要望書が提出されました。

### 【福岡県河川協会の要望活動】

福岡県河川協会では、令和元年10月21日(月)に、通常総会において決議された、災害復旧及び防災事業等の促進について、国土交通省及び地元選出国會議員の方々に対し要望活動を行いました。

福岡県では、「平成29年7月九州北部豪雨」、「平成30年7月豪雨」からの復旧復興に取り組んでいる中、令和元年7月、8月の記録的な大雨により、3年連続で甚大な被害が発生しました。

このため、災害からの早期復旧及び再度災害防止対策の推進や安定的な予算確保等について要望いたしました。

### 【令和元年度 災害復旧促進全国大会】

令和元年11月5日(火)に災害復旧促進全国大会が開催されました。福岡県からは、安丸大刀洗町長、藤田添田町副町長等が参加されました。

国土交通省から令和元年度の災害とその対応について説明があり、また、地方代表意見要望として、北海道の宮坂厚真町長から意見発表がありました。

その後、「災害復旧促進に関する決議」があり、地元選出国會議員の方々に要望活動を行いました。



### 【令和元年度 治水事業促進全国大会】

令和元年11月6日(水)に治水事業促進全国大会が開催されました。福岡県からは、武末那珂川市長、黒土福智町長、澁谷東峰村長、森久留米市副市長等が参加されました。

東京大学加藤教授の「災害の時代にどう備えるか」という特別講演の後、治水関係事業の促進について決議が行われ、地元選出国會議員の方々に要望活動を行いました。



編集  
後記

今年の子年。十二支のスタート。何か新しいことを始めたい気もしますが、「何ぞ、たゞ今の一念において、直ちにことする事のむづかさ。」です。心せねば。  
表紙の写真は、多々良川(福岡市東区松島)(古賀)

#### ◆ STAFF

発行・編集 福岡県河川協会(福岡県県土整備部河川管理課内)  
〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7  
TEL:092-633-2826(直通)  
FAX:092-643-3669  
企画 正光印刷株式会社

福岡県河川協会ホームページ

<http://www.fukuoka-pref-kasen.jp/kasenkyokai/>

